



# 城南中だより

学校教育目標  
希望と愛をはぐくむ  
美と活力の学校

3月号 令和8年3月2日発行 第13号

〒339-0034 さいたま市岩槻区笹久保577 <http://jounan-j.saitama-city.ed.jp/>  
Tel 048-798-0007 さわやか相談室直通 048-797-0514

## 蟻の一穴 ～ 「<sup>しょうじ</sup>小事」といえども放置しない決心

校長 吉原 誠士

かつて小学校の教科書に載っていた「ハーレムをすくった少年」は、土手に開いた穴からの水漏れを見つけた少年が、一緒にいた弟には大人を呼びに行くように優しく告げ、自分は身を挺して破壊を防いだという話です。ハーレムはハールレムとも呼ばれるオランダの地名です。面積の約四分の一が海面よりも低いこの国では、堤防を築いて風車を動力として排水しながら洪水を防いでいました。私は当時、東京ゼロメートル地帯に住んでいたため、話題として身近だったこともあったので、<sup>しょうじ</sup>「小事」が<sup>だいじ</sup>「大事」（この場合の「大事」とは「おおごと」の意味。以下「おおごと」と書く）につながると見抜いての少年の行動が印象的でした。

教職に就いてからもこの話は頭に残り、身の周りで起こるあらゆる出来事について、「小事」で済むのか、それとも「おおごと」に発展するのかを考えることが癖になりました。そうして40年以上の経験を積み重ねるとある程度は根拠をもって見極められるようになります。それと同時に自分を過信しないようにする慎重さも持ち合わせるようになりました。さらに、「1件の重大事故の背景には、29件の軽微な事故と300件のヒヤリハットがある」という言い回しを知ってからは、「小事」の段階でそれが「おおごと」に発展しないように学校を運営しようと意識しています。

<sup>あり いっけつ</sup>「蟻の一穴 = 蟻が掘った小さな穴であっても放っておけば堤防決壊に至る可能性がある」とは「小さな出来事であっても、それが引き金となってチーム全体あるいはプロジェクトそのものの崩壊につながることもあるから気をつけろ」という<sup>けいく</sup>警句です。英語には「A little leak will sink a great ship」（小さな水漏れは大きな船を沈める）ということわざもあり、大きな事故や事件を未然に防ぐ上で大切な心得です。本校に赴任してから2年、散見されてきた「小事」に改めて手を入れ直し、万全を期することにします。

先々週の朝礼では、廊下天井の<sup>はかいこん</sup>破壊痕、図書室の本の破損、SNSでの“嫌なやり取り”について話をしました。一人ひとりが現実を知り、自分たちに何ができるかを考えるきっかけにすることがねらいでした。「小事」を「おおごと」にさせないことを理解した生徒の視線は刺さるようにこちらに注ぎ、集中力の高さが感じられました。あらゆることを、「<sup>ひとこと</sup>他人事」にせず課題として捉え、思考・判断する場面を増やせば本校の生徒は安全で安心な生活が築けるのだと信じることができました。生徒会本部役員によるはたらきかけ、各委員会の目標達成などを中心に据え、自分の周りで起こることに関心をもって城南中学校をよりよくしようという意気を育てます。地域、家庭にも広く協力を求めることになるかと思えます。よろしくお願ひします。

**「花笑み教育」も併せて新年度に向けての計画が進行中です**